

## BASIC: 50分授業のモデルプラン

### 1. セルフリーディングタイム (10分)

生徒は、教室に入ったら、自主練習用のストーリーブックでセルフリーディングを始めます。

先生は、宿題をチェックしながら、一人ひとりの生徒と短い会話をします。

後半の5分では、先生が一人ひとりの進捗を確認しながら、ストーリーブックの5~7ページを抜粋し、一人ひとりを読み合わせをしながら理解しているか確認します。

### 2. 宿題の復習 (10分)

前回のレッスンで出した宿題の文法を使ってスピーキングの練習をします。

例: "What sports do you play?"

生徒は順番に、自分のことに置き換えて返答します (例: I play soccer. I play dodgeball. I play baseball.)。

この段階では、"do"について説明します。たとえば、do + play = playということをお教え、doの役割は日常的に同じことをする時に使う言葉ということをお教えます。その上で、答える時は"do"がなくなり、playだけ使うという"決まり"があることを理解してもらうようにします。

何度も同じ説明をすることで、この規則を論理的に理解してもらうようにお教えます。

### 3. 否定形の練習 (4分)

次に、否定文の練習に移ります。

例: "What sports don't you play?" → I don't play tennis.

肯定文と否定文の両方が自然に身につきます。

### 4. 質問練習とペアワーク (8分)

まず、生徒が先生に質問をします (例: Do you play tennis? Do you play soccer?)。

その後、生徒同士がペアになり、互いに質問と回答を行います。先生は生徒同士の会話を聞きながら、間違っているところがあれば直します。

\*ペアワークをすることにより、会話の練習量が増え、生徒同士で自主的な表現で会話することで、緊張せずに話せるメリットがあります。また、間違い=恥ずかしいという感覚が少なく、間違えることは向上するきっかけを作るといったポジティブなことということを伝えます。

### 5. 応用の練習 (5分)

学びを柔軟にするため、答えの対象をゲームや楽器などに変えて回答に変化を与え理解を深めません。

例: Do you play UNO? Do you play tag?

例: Do you play piano? Do you play guitar?

先生は生徒が持っている答えを引き出し、ジェスチャーや例えを使って新しい単語を明確にし、質疑応答の練習を繰り返します。

#### 6. 宿題 出の説明をする (8分)

先生はその日のレッスンで出す宿題の説明をします。例: go

例: "I go to the park.", "I don't go to work"

先生が各ページの内、1~2問の解き方を指導し、この時に書く練習もします。こうすることで、宿題の目標が明確になり、生徒の理解度が把握でき、間違っていれば訂正します。

#### 7. クローキング・ゲーム (5分)

最後は短いゲームをします。

例: 黒ひげ危機一発、カエルバランス、ポテトドロップなど。

生徒がゲームに参加するためには、新しい質問を出して回答しえなくてははいけません。

例: "Do you go to school?"

なぜこの方法が効果的なのか

- ・ 毎回セルフリーディングでレッスンを開始する。
- ・ 新しい内容に入る前に復習で自信をつける。
- ・ 先生との一対一の練習、グループで練習、ペアで練習、読む、筆記、ゲームなど、複数のアクティビティでレッスンに変化を与え、集中力を保つ。
- ・ 授業を楽しく記憶に残る形で締めくくる。